

図画工作科における造形遊びの指導の工夫

指導主事 吉 村 茂
Yoshimura Shigeru

要 旨

図画工作科の内容 A「表現」の一つに造形遊びがある。子どもが自由に発想を広げ、のびのびとした活動をとおして感性や創造性を養うことのできる内容で、すべての学年で指導することとしている。しかし、準備物や場所の設定、展開方法の難しさなどから小学校の図画工作の授業で、「造形遊び」が「絵や立体に表したりつくりたいものをつくる」活動に比べ、扱いが十分でない傾向にある。そこで、「造形遊び」が学校で実施しにくい理由を考察し「造形遊び」の効果的な指導と題材設定の工夫について研究する。

キーワード： 造形遊び、自由な発想、豊かな情操

1 はじめに

小学校の教員から「造形遊びの授業はどうすればよいのか分からない。」「単に遊んでいるだけのように見えるがこれでよいのか。」という声を聞くことがある。造形遊びは、平成元年度改訂の学習指導要領から取り入れられているが、実際には学校で扱いが十分でない状況がある。作品をつくることだけが図画工作科の活動ではない。魅力的な材料や場所に出会ったときに生じる触りたい、遊びたいという欲求をもとにした造形遊びの活動は、子どもの意欲をかき立てて豊かな感性をはぐくむ重要な表現活動である。どのような題材設定をすればよいか、授業展開はどうすればよいかなど、教員が常に悩んでいることを研修講座での研修や学校での実践等を基に考察し、子どもの豊かな発想を引き出す造形遊びの題材設定や指導の在り方について考えてみたい。

2 研究目的

学校で取り組みやすい造形遊びの題材設定や展開方法の工夫について研究し、要請訪問や研修講座での指導内容をもとに、子どもの豊かな発想を引き出す造形遊びの題材設定や指導の在り方について考察する。

3 研究方法

- (1) 学習指導要領の造形遊びのねらいと展開についての分析・考察
- (2) 造形遊びの効果的な題材の開発と指導方法についての事例研究

4 研究内容

- (1) 学習指導要領の造形遊びのねらいと展開についての分析・考察

図画工作科の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、つくりだす喜びを味わうようにするとともに造形的な創造活動の基礎的な能力を育て、豊かな情操を養う。」である。「表現及び鑑賞

の活動を通して」とは、図画工作科が子ども一人一人の感じたことや想像したことを造形的に豊かに表す表現と、身近なものや作品などからそのよさや美しさなどを感じ取り、見方を深める鑑賞を基にする学習活動を示している。表現は、材料などをもとにした楽しい造形活動を行う内容〔表現(1)〕と、絵や立体に表したりつくりたいものをつくる内容〔表現(2)〕から構成されている。この〔表現(1)〕が一般的に造形遊びといわれ、平成10年の改訂では、多様で創造的な表現を促す観点から、それまで低学年と中学年において指導することとされていた、この造形遊びが高学年でも指導することとされた。

かきたいものやつくりたいものがあり、それに向かって材料や用具などを選び工夫して製作する活動が〔表現(2)〕とすると、造形遊びは、まず材料や場所があり、その形や大きさ、色、質感などに関心をもち、そこから発想したことをからだ全体を使って楽しくかいたりつくったりする活動である。したがって、造形遊びは活動そのものを評価することになる。中には活動終了時に作品が残らないため、作品からの評価ができない題材もある。それゆえ、一人一人の子どもの活動の様子を活動中に把握する手立てが大切である。

造形遊びの内容が発達段階に応じて系統的に行われるように、カリキュラムを編成しなければならないことはもちろんである。しかし、実際には各学年まかせで、系統的な指導となっていないことが多い。

【A表現（造形遊び）の内容】	
1. 2年	<u>材料</u> をもとにした、楽しい造形活動
3. 4年	<u>材料</u> や <u>場所</u> をもとにした、楽しい造形活動
5. 6年	<u>材料</u> や <u>場所</u> などの <u>特徴</u> をもとに <u>工夫した</u> 楽しい造形活動

学習指導要領の造形遊びの内容は、材料や場所にポイントを置いて系統性を示している。そこからさらに内容を具体化するために、風、光など、主として活動に取り入れられている効果的な要素を取り上げ、それについて子どもの発達段階に応じた題材を設定することにより、多様で創造的な表現ができると考える。

(2) 造形遊びの効果的な題材開発と指導方法についての事例研究

ア 具体的な題材開発と指導方法の工夫

造形遊びを先進的に取り組んでいる学校や研究校の実践を見ると、実に多様な題材設定がされている。その中で、材料や活動対象としてよく取り入れられ、それにより効果的な活動が見られるものに、紙、布、容器類などの身近材料や風、光、水、空気、土などの活動対象がある。これらはすべて身近にあり、子どもたちの生活と密着したものである。造形遊びの題材を設定する際に、こうした身近で親しみのある材料や活動対象の特徴を生かしてからだ全体を使った活動内容を工夫することが大切である。研修講座などで作品が残らない実践例を紹介すると、受講者から「こんな活動でいいのですか？」といった声を聞くことがある。図画工作科の活動は〔表現(2)〕のイメージが強く、どうしても最終的に形あるものをつくることにとらわれやすい傾向にある。そうした教員の既成概念を崩すことから、子どもの活動を主体にした柔軟な題材設定につながっていくと考える。

学校現場では、短時間設定の題材で、準備物が安価で簡単に手に入り、準備や片付けに時間がかからない内容がより実施しやすい。もちろんそれでいて子どもの発想が広がりやすく、楽しく意欲的に活動できる内容で、ねらいが明確になっているものでなければならない。

そこで、それらに適した効果的な題材を、独自に開発したものや先進的な取組を県内小学校での実践事例の中から取り上げてみた。

『ダン・だん・段ボール』(高学年・2時間)

(材料・用具等) 段ボール箱、はさみ、段ボールカッター

(内容) 直方体の段ボール箱を上3分の2程度を切り離し、それをはさみで自由な形に切ったものを下3分の1に切り込みを入れて差し込む。「段ボールを変身させよう」と声かけすることでゲーム感覚で楽しく活動することができる。



『どんどのびるチラミッド』(中学年・2時間)

(材料・用具等) 折り込みチラシ、セロハンテープ

(内容) チラシを巻いた棒を三角形に端と端をつなぎ、立体に表す。長さが異なる棒を組み合わせるため、いろいろな形になる。より細く巻くことで棒が丈夫になることに気付かせ、強度のある大きなチラミッドに挑戦させるようにする。



『ピックアップファイブ』(高学年・2時間)

(材料・用具等) 落ち葉、小枝、小石等、画用紙、接着剤

(内容) 目的を知らせずに自由に拾ってきた落ち葉などの5つの素材を紙の上で組み合わせ、いろいろは表情の顔をつくる。素材の形に着目し、配置を工夫させることで様々な表情ができることに気付かせるようにする。



『風でヒラヒラ新聞紙』(低学年・2時間)

(材料・用具等) 新聞紙、ホチキス、荷造り用のひも

(内容) 荷造り用のひもで田の字に組んだものを四隅を壁などにくくりつけ、新聞紙を自由に裂いてホチキスで留める。窓を開けて風を入れて揺れる新聞紙の様子を下から視点を変えて見ることで、見え方の違いを楽しむ。



『みどりのじゅうたんにならべて』(中学年・2時間)

(材料・用具等) Tシャツ、ズボン等の衣類

(内容) 緑の芝生にTシャツなどを並べ、形や色の組合せを楽しむ。並べたものを入れ替えたりすることで、形の特徴や配色を考えたレイアウトの仕方を工夫する。最後に互いの作品を紹介し合い、表現を楽しむようにする。



イ 研修講座における造形遊び演習の取組

小学校の図画工作や幼稚園の造形表現に関する研修講座では、造形遊びについての演習を多く取り入れ、教員の指導力向上に努めている。受講者の感想では、「造形遊びの指導方法が分からなかったが、実際に演習で体験できてよく分かった」などの声をよく聞く。また、造形遊びについての演習を取り入れた研修講座には毎回受講希望者が多いことから、造形遊びの指導に悩んでいる現場の教員が多いことが推察できる。

次の題材例は、研修講座で実施したものである。

題材例

1 題材名 『あわ・アワいっぱい!』(低学年) A表現(1) B鑑賞(1)

2 題材の目標

- ・あわの感触や香りを楽しみながら、友達と協力して活動する。(ア関心・意欲・態度)
- ・あわの色や感触からイメージをふくらませて思いのままに表そうとする。(イ発想・構想の能力)
- ・あわを積み上げたりかき混ぜたりしながら表現方法を工夫していろいろな形をつくる。(ウ創造的な技能)
- ・あわの質感や香りを味わったり色の美しさなどを感じ取ったりして友達や自分の活動を楽しむ。(エ鑑賞の能力)



写真1 受講風景①

3 指導計画(全2時間)

- ① 固形石鹸と浴用タオルを使ってあわをつくる。
- ② あわをテーブルに広げ、かき混ぜたり積み上げたりして感触を楽しむ。
- ③ 水彩絵の具を加え、混ぜ方を工夫しながら色の変化を楽しむ。
- ④ 友達とあわを混ぜ合わせて、一緒に活動する。

○ 題材設定と指導のポイント

子どもにとってあわは軽くて柔らかく、自在に形が変わる身近な素材である。また、絵の具の混ぜ方を工夫することでマーブル状になったり、複数の色が混色されたりと活動の幅を広げることができる。五感をはたらかせて素材の色や形、香りや質感を感じ取ることにより、感性や創造性を高めることができる。あわをつくる時に「洗面器いっぱいつくろう」など具体的な目標を与えたり、初めはあわだけで感触にポイントを置いて活動を観察し、後半は絵の具を与えて色にポイントを置いた活動をさせるなど展開を工夫することが大切である。ケーキなどの具体物をつくる子やテーブルにあわの流れの模様をつくる子など様々な表現が見られる。時間が経てばあわが消えてしまうので、子どもの活動の様子を写真に撮り、掲示してあげることも大切である。



写真2 受講風景②

ウ 県内の小学校における造形遊びの取組

次の事例は県内の小学校で実践された、造形遊びの実践事例である。

実践事例

1 題材名 『あんなまち こんなまち どんなまち？』（第1学年）A表現(1) B鑑賞(1)

2 題材の目標

- ・いろいろな色の線のリズムを楽しみながら、思いのままに表そうとする。(ア関心・意欲・態度)
- ・線の形や色、模様の面白さを発見し、いろいろ試しながらかく。(イ発想・構想の能力)
- ・ローラーの転がり方や線の太さの違いに気付き、思いついたことを試したり、工夫したりしながら表す。

(ウ創造的な技能)

- ・自分や友達の作品の表し方のよさや面白さに気付き、楽しくみる。(エ鑑賞の能力)

3 指導計画（全3時間）

第一次 大きな紙に、ローラーで絵の具を付けて道づくりをする。

第二次 小さな紙に建物や草花をかいて道の回りに立体的に貼り付け、まちづくりをする。

第三次 つくったまちを見て、自分たちの活動を振り返る。



写真3 子どもの活動風景

○ 題材設定と指導のポイント

本題材は、自在にローラーを使い、自分の表し方でかいたりつくったりして、思いのままに活動を進めることができる。また、体全体の感覚を働かせ、作りだす喜びを感じることができる題材である。ローラーの作りだす線の動きや色などの特徴から発想し、思いついたことを楽しく表していく。グループでどんなまちにしたいかを相談していく中で、友達と



写真4 子どもの作品

の関わりが広がり、自分たちの作品の形や色、表し方の面白さに気付くことができる。その時々活動に集中させるため、事前に活動全体を伝えないことが大切である。

また、全紙大の紙とローラー、画用紙等と準備物も簡単で、子どもが発想豊かにダイナミックに活動できる題材である。グループ活動であるため、声かけしたり写真を撮ったりして個々の活動を把握し、確かな評価をすることに心掛けるよう注意する。

(4) 造形遊びにおける評価の在り方

造形遊びが広がりにくい理由の一つが評価の難しさにあると考えられる。その時々適切な評価を行うことは、子どもの発想を豊かにし造形遊びの活動の広がり大きく影響を与えることは周知のとおりである。評価には大きく次の三つが考えられる。

○ 子どもの自己評価

活動途中又は活動後に、自分の表現をめあてに照らして表現内容や作品の完成度等について製作カード等を活用して振り返り、その後の活動に生かす。

○ 友達による評価

子どもが、活動中の友達との自然な会話や活動後の意見交流等で、友達のがんばりや表現のよさ、工夫点等について、相互に認め合ったり、アドバイスし合ったりし、その後の活動に生かす。

○ 指導者による評価

指導者が個々の子どもの活動を評価規準に基づいて評価し、それを基に一人一人のがんばりや活動内容に見られる工夫を認めるとともに、改善点について指導する。

「指導と評価の一体化」が叫ばれているが、指導者の評価が未だに完成作品に対する評価のみに終わっていることも少なくない。評価カードを活用するなど、個々の活動全体を常に見る手立てを講じ、タイミングよくアドバイスしたり、活動意欲や表現の工夫をほめたりすることで個々の活動が認められ、意欲の高まりとともに活動の幅が広がっていくと考えられる。その際、造形遊びの評価には、子どもの表面に現れた活動からその活動の基になった個々の発想を読み取ることが大切となってくる。試行錯誤を繰り返しながら活動することが多い内容だけに、個々に声かけしながら一人一人の活動の流れを把握するようにしたい。

また、表現と鑑賞を効果的に取り入れた展開を工夫することが大切である。表現活動の合間に自分や友達の作品を鑑賞し、意見交流することで、自己評価や友達の評価がその後の表現活動に生かされ、表現の方向性が明確になる。



写真5 子どもの活動風景②

5 おわりに

今日、学校教育で重要とされている豊かな感性、創造性の育成には、図画工作科がその大きな役割の一端を担っていると言える。その中でも、造形遊びは子どもの発想を広げ、創造性を高めることのできる中心的な活動であると言える。これからも県内の教員に対し、要請訪問や研修講座等で造形遊びの意義や具体的な題材設定、指導の工夫などについて指導の充実を図り、幅広い図画工作科の学習を通して、豊かな感性や創造性を身に付けた子どもの育成を図りたい。

参考・引用文献

- | | | | |
|-----|--|--------|-----|
| (1) | 文部省「小学校学習指導要領」解説 図画工作編 | 日本文教出版 | 平15 |
| (2) | ワクワクのびのび小学校図画工作科造形遊び | 小学館 | 平12 |
| (3) | 「図画工作 みかたがかわる授業づくり」
西村德行 -筑波大付属小学校- | 東洋館出版社 | 平17 |
| (4) | 幼児の造形 ワークショップ 2 立体造形・造形あそび編
東山明 監修、山野てるひ編 | 明治図書 | 平16 |